

# 地域公共交通の3つの見える化に対応した機器の開発

福井のり子・森山昌幸・河井徹（株式会社バイタルリード）

## 1 背景・目的

地域公共交通には、利用者や地域住民、運行事業者、自治体など様々な主体を含めた「協働」での取り組みが求められています。

地域公共交通のマネジメントにおいては、3つの見える化が重要

① 顧客ニーズの見える化

② 運行サービスの見える化

③ 改善過程の見える化

→ 地域公共交通の可能性を広げる機器を開発

- 地域別の時刻表・路線図
- モビリティ・マネジメント
- 利用者の不安解消

② 運行サービスの見える化  
利用者目標のコミュニケーション

- GISの活用
- アンケート調査
- 住民意見交換会 など

① 顧客ニーズの見える化  
徹底したニーズの調査・分析

- 利用状況の常時計測
- 計測データのオープン化
- 運行内容の改善 など

③ 改善過程の見える化  
ビッグデータの蓄積と活用

## 2 プロジェクトの内容

### 運行サービスの見える化 → バスの車載器

その1

バス車内表示による誰でも利用できる環境づくり  
**不安を解消する車内表示**

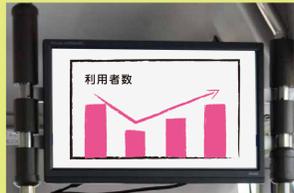
普段乗りなれないバスに乗るとき、バスに乗り間違えていないか、降りそこないか、必要な小銭があるか、不安になった事はありませんか？わかりやすい行き先表示・料金表示で、初めての方でも安心してバスに乗車できます。



その2

さまざまな情報を表示することで利用者の意識啓発にも  
**バス利用の見える化**

モニターにバスの利用状況や収支の状況などを表示する事で、バス事業のPRや利用者の意識啓発につながります。



こんな不安を解消!



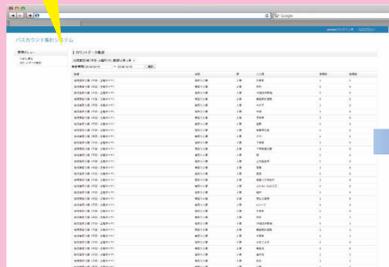
### 改善過程の見える化 → 乗降カウンター

その1

ビッグデータの蓄積  
**乗降者数の常時計測**

バスの運転手自ら、カウント作業を容易に行うことができ、これまで調査できなかった年間を通じた状況も把握できます。

専用HPで確認

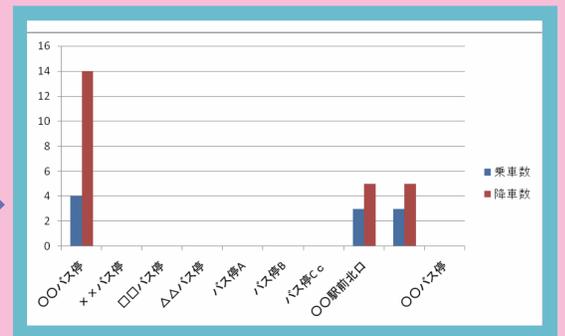


バスカウント集計システム

その2

迅速な運行内容の改善へ  
**リアルタイムに集計**

バス停別、便別の乗降者数を自動的に集計することが可能で、迅速にサービス改善に反映できます。



表計算ソフトに取込み分析に活用

## 3 プロジェクトの効果と今後について



○バス車載器は島根県内の自治体（車両3台）で運用を行っています。

わかりやすい車内表示により利用者の不安を解消するとともに、利用促進として地元の学校などと連携したオリジナルアナウンスの活用や児童の作品展示などを可能としました。

○バス車載器と乗降カウンターを連動したシステムとすることで、GPS情報のとりにくい箇所での計測を可能にし、さらにより安価な機器の開発を実現しました。

◀高校放送部による録音

厳しい財政制約を強いられる中、これらの「見える化」を実現できていない自治体は多く存在します。これらの機器は、今後の地域公共交通サービスの計画策定やサービス内容の改善、利用促進など、一連のPDCAサイクルにおいて重要なシステムになると考えます。

